



竹林の風

一視点を変えて(巻頭のあいさつ) 河内教育事務所長 山口 弘倫

いよいよ来年の夏に東京オリンピック・パラリンピック2020が開催されます。日本で開催される夏季オリンピックは56年ぶりであり、今から楽しみにされている方も多いかと思います。

トップアスリートがどんなパフォーマンスを見せてくれるか、メダルを誰が取るか等々、興味・関心の尽きないところではありますが、人権という視点からオリンピックを調べてみますと、まず、オリンピック憲章の中に「このオリンピック憲章の定める権利および自由は人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治的またはその他の意見、国あるいは社会のルーツ、財産、出自やその他の身分などの理由による、いかなる種類の差別も受けることなく、確実に享受されなければならない。」とあります。

オリンピックが直面してきた様々な人権問題には、「女性の人権問題」や「人種差別」等が挙げられ、1896年の第1回アテネ大会では、女性は参加できなかったそうです。当時の大会は「古代オリンピック」がモデルになっているようで、近代オリンピックの創立者であるクーベルタン自身も女性の参加には反対していたと言われています。その後、1900年の第2回パリ大会からは女性も参加できるようになりました。更に、1964年の東京大会では「男性のような」体格をした女子選手が陸上競技でメダルを獲得したことで、性別を疑う議論が起こったそうです。そのことを契機に1968年のメキシコ大会から、女性だけ性別検査が始まり、女性の人権侵害にあたると多くの抗議があったとされていますが、1999年に中止されるまで30年以上検査が続いたそうです。

また、人種差別問題も、オリンピックに大きな影響を及ぼしてきたとされます。例えば、有色人種の隔離政策であるアパルトヘイトを行っていた南アフリカ共和国は、1964年の東京大会以降、参加が認められず、1971年にはオリンピックから追放されてしまいました。復帰したのは、1991年にアパルトヘイトを撤廃した翌年のバルセロナ大会からでした。

以上のように、オリンピックはさまざまな人権問題に直面してきましたが、このような歴史を踏まえ、オリンピック・パラリンピックを人権の視点から見ることで、何かを感じ、児童生徒にそれを伝えていくことも人権教育の一助となり得ることはないでしょうか。

ふれあい学習応援隊

ふれあい学習推進の一環として、「ふれあい学習応援隊」を実施しています。職員研修やPTA研修などの機会に、河内教育事務所ふれあい学習課の職員が講師を務める事業です。内容や進め方は実施する学校と相談しながら決定します。

＜実施例＞

- 仲間はすれやマイノリティの存在に気付くことができる人権意識を高める職員研修
- 就学時健康診断等の機会に、保護者同士の心をグッと近づけるための子育てについて考えるワーク

主に参加体験型(ワークショップ)の学習方法を取り入れた講座を実施しています。詳細については教育事務所ホームページから閲覧できます。費用はかかりませんので、是非御活用ください。

お問い合わせ：ふれあい学習課(028-626-3183)



河内宇都宮地区市町教育委員会連合会の取組

令和元年5月21日に、今年度第1回目の河内宇都宮地区市町教育委員会連合会第1回定例会・研修会が開催されました。

本会は、宇都宮市と上三川町の教育委員会で組織され河内宇都宮地区の教育の振興を図ることを目的とし、毎年5月と10月に定例会及び研修会を開催しています。

今年度1回目の定例会では、宇都宮市と上三川町から教育長、教育委員合わせて7名が参加され、教育事務所からは所長以下6名が出席しました。会議では、平成31年度人事異動報告、昨年度の会務報告及び決算報告さらに今年度の事業計画案や予算案等の審議が行われました。

定例会後の研修会では、宇都宮大学教職大学院教育学研究科教育実践高度化専攻の菊地高夫准教授から「宇都宮大学教職大学院の取組と成果」という演題で講演をいただきました。

菊地准教授の御講演では、学校現場に密着した実践研究を進めながら、最新の教育理論や指導方法を学び、さらには教育理論と学校現場での実践を丁寧につないでいくという宇都宮大学教職大学院の取組について、映像やパンフレット等を用いながら具体的に説明していただきました。教職大学院についての認識を深める貴重な機会となり、参加者一同有意義な研修となりました。

※今後も、機会あるごとに河内宇都宮地区市町教育委員会連合会の活動について紹介してまいります。



ネットトラブル防止教室が行われました

県教育委員会では、ネットいじめの未然防止を目的に、情報モラル教育等に詳しい外部講師を派遣して公立小中学校の児童生徒を対象に研修会を実施しています。6月14日（金）には、宇都宮市立宝木中学校の1年生と参加を希望した保護者を対象に、警察官やスクールソーシャルワーカーの経験がある中村凱夫先生を講師に迎え、研修会が行われました。生徒たちは、実際に起こったSNS上のトラブルなど、中村先生の勤務時の経験に基づいた話に真剣に耳を傾けていま



ました。生徒からは「スマートフォンやインターネットの危険性が改めてわかった。気を付けながら使いたい。」などの意見が出され、有意義な研修会となりました。保護者の参加もあり、関心の高さを感じることができました。現在も今年度実施分の応募を受け付けております。どうぞ御活用ください。